

令和 8 年度 第 2 回磐田市総合教育会議 会議録

日 時: 令和 8 年 7 月 10 日(金) 午後 1 時 30 分～午後 3 時

会 場: 磐田市役所 西庁舎 3 階 305 会議室

出席者: 市長、教育長、鈴木好美委員、秋元富敏委員、阿部麻衣子委員、大橋弘和委員
(出席者 6 名)

事務局: 企画部長、教育部長、政策推進課(課長、総合戦略グループ長、担当)、
教育総務課(課長、総務企画グループ長)、児童生徒支援課長、こども未来課長、
こども若者家庭センター長、幼児教育保育課長、自治デザイン課長

傍聴者: 2 名

【会議次第】

1. 開 会

2. 市長あいさつ

3. 協 議 事 項

(1) 磐田市における児童生徒支援連携の構想について

4. 閉 会

[協議の主な内容]

発言者	発言内容
市長	学校ごとに様々な特色や課題がありますが、先生方が真摯に向き合っています。子どもたちが毎日元気に通っている姿を見ると、大人になってもこの地域を選んで住んでもらえるような地域づくり・学校づくりをしていかなければいけないと感じます。 また、水筒を２つ持参する子どもや、遠距離通学の子どもは朝の間に水がなくなってしまう状況もあり、急遽６月議会で補正予算を計上し、ウォータークーラーの設置を決定しました。夏休み明けに間に合うかは分かりませんが、対応できて良かったと思っています。 その他、向陽学府のプール授業の状況、夏休み中に生じる様々な課題への対応、９月から本格始動する部活動の地域展開への対応、部活動に入らない外国籍の子どもたちの居場所づくりなど、課題が山積していますが、目指す方向は皆一致しているので、それぞれができる範囲で頑張れる仕組みを教育委員会とともに作っていけるよう、本日の総合教育会議でも諸課題を共有できればと思います。

(1) 磐田市における児童生徒支援連携の構想について

・児童生徒支援課より説明

発言者	発言内容
市長	各課から補足説明をお願いします。
こども若者家庭センター長	５歳児健診について、今年度から試行的に開始し、令和１０年度に全園で実施予定です。１歳６ヶ月・３歳の法定健診は体の成長を見るものですが、５歳児健診では心の成長・社会性を捉えることができます。小学校入学までの間に、医療や施設に繋がったり、園で発達を促す取組を行うなど、早めに介入することで、小学校入学時の適応困難を減らせると考えています。 また、若者相談については、統計上、小学校・中学校時代の不登校の経験が大人の引きこもりに繋がることも多いため、情報を共有いただき連携していきたいと思います。
こども未来課長	就学前の子どもの支援が中心ですが、発達支援センター「はあと」を通じて、小学校・中学校の子どもにも関わっています。友達ができない、勉強につ

	いていけない、言葉が通じないという課題の裏には、実は発達特性が一因となっていることもあり、こども未来課と児童生徒支援課の課題は切っても切れない関係です。医療機関や児童通所支援施設と、教育委員会をつなぐ役割も担いたいと考えています。 言葉の教室については、幼児期と就学期の繋ぎを一緒に取り組んでいきたいと考えています。
幼児教育保育課長	就園調査について、今までは職員配置数の把握が目的になっていましたが、民営化が進み職員数も確保できるようになってきたので、本来の目的である子どもの発達の状況を把握する方向に見直していく予定です。 2歳・3歳の就園調査については、公立園だけで実施しており、私立では実施していないため、2歳は発達支援センター「はあと」からの情報提供、3歳は入園申し込み受付で把握、4歳は5歳時健診を利用して学校に繋げていきたいと思います。年長では専門調査があるため、年中・年長と調査を重ねて学校に繋げ、子どもの発達を掴んでいきたいと思います。
自治デザイン課長	児童生徒に対する支援は、外国にルーツを持つ方への日本語学習機会の提供や、ニーズに応じた情報提供をしています。 地域日本語教室は、レベルに応じてクラス分けを行い実施しています。情報発信については、市役所に外国人情報窓口を設置し、通訳者を配置しています。また、外国人アンバサダーを委嘱して、各コミュニティに対して丁寧な情報発信を行っています。多文化交流センター「こんにちは」において、国籍に関係なく誰もが安心して過ごせる場・交流できる場の提供も行っています。 情報発信力の強化や、接点の増加に向けた取組により、ひとりひとりが尊重され、誰もが地域のルールやマナーを守って安心して暮らせるまちづくりを目指していきます。
市長 教育長	議論に入る前に、まずは本日のテーマ設定にかかる意図を教えてください。 不登校や外国籍の諸課題を深掘りするよりは、教育委員会と市長部局の繋がりを広げていく点、学びの連続性をしっかり考えていきたい点、集団のなかの学びで社会性や自信をつける「共に学び、共に育ち合う場」まで、個別支援からアプローチして集団の中で適応できるようにどのように支援していくかという点について、それぞれの立場からご意見いただけるとありがたいです。
教育委員	支援体制図は視覚的に見えるので良いと思います。外国籍の方向けの情

	報や、フォローしてくれる場所の情報等、もう少し情報を加えて記載すれば、保護者も全体像が理解しやすいものになると思います。
市長	支援体制図はどの部署が完成させるのが良いでしょうか。
企画部長	児童生徒支援課を作った自分の想いとしては、外国籍児童だけ、幼児教育だけ、発達支援だけの単独計画ではなく、子どもの総合的な磐田版のプランを作成してほしいというオーダーをしたのを覚えています。企画部長としては、10年後に磐田の子どもたちをこういう風に取り育てていきたいという目標があった上で、それを具現化するための取組を各課と調整しながら毎年の事業として可視化してほしいと思っています。
市長	今あるリソースにたどり着けていない保護者に対しては、今のベースをまず作る作業を、児童生徒支援課が主となり、こども未来課が従として、総合教育会議の成果としてこの絵を今年度中に完成させてほしいと思います。また、保護者目線を意識して作成してほしいと思います。
教育委員	コミュニティスクールなどは、保護者に馴染みのない用語かもしれません。
教育委員	外国籍の方は、自治会に入っていない人も多く、関わりが難しいという話を聞いたことがあります。就学前に外国籍の方を集めた説明会を行った学校は、スタートがうまくいったという話も聞きました。
市長	分かりにくい部分は二次元コードなどを載せても良いかもしれないですね。 また、県では外国にルーツがある方のスクールカウンセラーがいると聞いたので、そのような仕組みを入れておくのも良いと思います。
教育委員	不登校を減らすには魅力ある学校づくりが大切ですが、学校づくりには先生が必要なため、先生方を減らさないことも重要だと思います。
市長	その点については、教育長にお任せします。
教育委員	地域の見守り隊の方が学校と関わりやすいように、指針やガイドブック等があれば良いと思います。
市長	地域の方が子どもたちの登校に同行している地域は、挨拶がしっかりとできると感じます。良い事例を横展開する仕組みは地域の中でも必要かもしれません。
教育委員	子どものことを考えている部署が多くあることを本日知りましたが、部局横断的に柔軟に行き来できる職員がいたらもっと良いと思いました。
教育長	今までは幼小連絡会や学校が園を訪問して得た情報をもとに、学校が見立

	てをしていました。今後は、5 歳児健診の見立てをもらうことで、さらに支援を繋げていきたいと思っています。
こども未来課	まだ構想段階ですが、発達に課題があるなど丁寧な関りが必要な子どもへの個別支援を 10 月頃から試行的に始めたいと思っています。ゆくゆくは5歳児健診の事後フォローとして、相談や療育の手前の支援として実施していきたいと思っています。
市長	組織として新たな人員の配置の必要性については少し考えます。児童生徒支援課として最後に伝えたいことはありますか。
児童生徒支援課	学校と教育委員会を繋ぐスクールソーシャルワーカー等の巡回支援を実施していきたいと思っていますが、様々な情報を持った人が学校に入り、学校と一緒に支援方法等を考えていけるような仕組みを作りたいと思っています。
市長	全国へ展開できるような、そのような仕組みへの補助を作ってほしいと文部科学省に要望を出しても良いと思います。
教育委員	それであれば、各学校もまわって教室の環境も分かるコーディネーターとして作業療法士を入れてほしいです。
教育委員	誰もが躓くことがあるが、褒めてあげることが大切だと思います。また、外国籍児童生徒は今後 10%を超えているので、将来を支える人材として力を入れていく必要があると思います。
教育長	「人」が、自分は大切な人間だとみんなから思われているという自己存在感を持つという土台がない限りは、いくら個別に教育しても、なかなか学び合えません。その土台を、魅力ある学校づくりでつくっていけたらと思います。